

JAそでうらの主な事業

販売事業

組合員が生産した農産物を集荷して販売することを販売事業といいます。

生産者・農家がつくったものをどう有利に販売するかは、農業所得を高めるために直結するため、とても重要な事業です。

販売事業は基本として共同販売で行います。共販によって品質をそろえ数量がまとまることから良い条件での販売ができます。さらに有利な販売を行うために、直販事業を拡大するよう取り組んでいます。

購買事業

購買事業は、組合員や地域みなさんに、肥料・農薬、農業施設などの生産資材や農機具、ガス・油類燃料や車両などの生活資材を安定的に供給するものです。

良質なものをできるだけ安くお届けするため、需要量の大きいものを中心にJA全農に発注をまとめより効率的な事業を行っています。

また、生産資材事業ではできる限り価格を引き下げるため予約とりまとめによる共同購入の拡大に取り組んでいます。

信用事業

信用事業は、組合員や地域みなさんから貯金や積みを預かり、これを原資に農業や生活の資金として貸し出しを行うものです。

JAが預かった貯金から貸出などを行い残った資金は農林中央金庫にあつめられ、農林中央金庫が有価証券等に運用します。

JAと農林中央金庫などにより構成している「JAバンク」は、それぞれに役割を分担しながら一体的な事業運営のもと各種金融サービスを行っています。「JAバンク」は、国内の民間最大級の店舗網を展開している、実質的にひとつの金融機関として機能するグループ名です。

営農指導事業

JAの事業は利用者自身がその事業運営に参加する、いわゆる協同活動が基本となります。この共同活動の代表のひとつが農業生産のための組織活動で、この内容は作物の導入普及・栽培指導のほか、農業資材の購入、出荷規格の統一と販売促進など多岐にわたります。

これら組織活動や農家生産活動を補佐するのが営農指導事業です。営農指導事業は栽培管理支援から営農振興対策の整備・実践まで時代や状況にあわせさまざまな役割を担っています。

農産物直売所

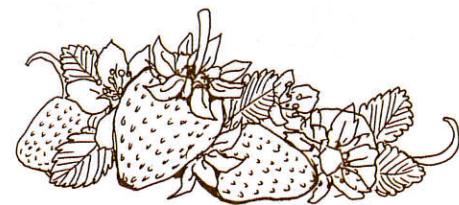
新鮮な農産物を地域みなさまにお届けすること、また農家所得の向上を目的に、直売組合とともに農産物直売所事業を行っています。

共済事業

共済事業は、相互扶助を事業理念として、生命と損害の両分野の保障として「ひと、いえ、くるまの総合保障」を提供しています。

JAとJA共済連は共同で共済契約を締結しており、JAは組合員・利用者みなさまと各種手続きを行い、JA共済連は各種の企画や仕組み開発、資金運用や共済金支払のための積み立てなどを行いながら、一体となって保障を提供しています。

JA共済は、こうした保障の提供だけでなく、交通事故対策や災害救援・復興支援、健康増進など、さまざまな地域貢献活動にも取り組んでおります。



JAそでうらの自己改革 私たちの取り組み



① JAって？

JAってどんな組織？

JAは協同組合です。「協同」とはみんなの願いをかなえたり、問題を解決するために、力を合わせることです。「協同組合」とは、みんなの力を合わせて、みんなの願いをかなえるための集まりです。だから主役は組合員です。組合員のみなさんがJAの事業や運営を決めています。

JAの総合事業ってなに？

JAは、組合員のみなさんの営農や暮らしに役立てていただけるよう、農産物の販売事業、農業生産資材の購買事業、ガソリンスタンドやAコープなどの生活関連事業、車両や農業機械の整備事業、農産物の直売所事業、信用事業（JAバンク）、共済事業（JA共済）など様々な事業を行っています。これを総合事業と呼んでいます。

協同組合であるJAの目的は営農や暮らしを守ることであり、そのための手段として総合事業を行っています。

また、農業施設投資や営農企画・指導員設置などの農業振興活動は、信用・共済事業などを含めた総合事業全体の収支で実施しているからこそ可能となっています。

JAはどんなことをやっているの？

農業関連事業として農業資材、農産物販売、農家や生産組織を支援する営農指導、農機整備、また信用・共済事業、生活関連事業としてガソリンスタンドとプロパンガス、車両整備、葬祭事業などを行っています（主な事業の内容は後掲）。

准組合員ってなに？

JAでは農業者のほかに、地域の住民の方でも事業を利用することができる准組合員制度があります。准組合員の事業利用によりJAの経営が安定し、農業関連事業の実施や地域に必要なサービスが可能となるなど、正組合員にとってもメリットがあります。正組合員と准組合員とで、JAの事業を通じて地域の農業と暮らしを支え合っているとと言えます。

農協改革ってなに？

総理の諮問機関である規制改革推進会議の意見によって、JAの総合事業を否定したり、准組合員の事業利用を規制したりしようとする動きがあります。

これが実施されればJAの弱体化や解体につながり、地域の農業や暮らしを支えることができなくなります。

JAそでうらでは、組合員や地域のみなさんの営農と暮らしにより一層役立てるよう、事業の主役である組合員とともに、これからも自分たちの意思で改革に取り組んでまいります。

② JAそでうらの自己改革

JAそでうらは総合事業の堅持と地域・組合員のみなさまに必要とされるJAであり続けるために、農業と地域とともにあるJAをめざし自己改革に取り組んでいます。

私たちの取り組み 1 農産物有利販売の実践

直販の強化

今後も地域農産物の有利販売の取り組みを進め農業所得を増加します。

JAそでうらでは、品質をそろえ数量をまとめることで有利に販売する共同販売をとっています。そのうえでマーケットイン（需要に応じた）の生産活動を進め、さらに価格交渉力を高め安定的な取引を目指して、個別商談による企画販売や市場を介さない直接販売を行っています。加工事業者、外食や中食業者など多様な販売先との安定的な取引に取り組んでまいります。

●直販体制の強化

直販にあたり5人を増員し米穀・園芸合計12人の販売体制をとり、個別商談等の販売活動を行っています。

●農産物パッケージの実施

量販店の要望に対応し納品力を高めるため需要期には最大10人体制による周年的な農産物パッケージ事業を行っています。

●販路の拡大

従来からの市場出荷に加え、量販店、生協、米卸、加工事業者、外食や中食業者など多様な販売先と安定的な取引を行っています。

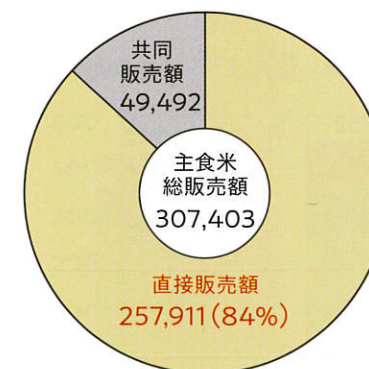
農産物直売所

農業所得の拡大、新鮮な農産物の提供のために農産物直売所を設置し、直売所組合とともに運営しています。

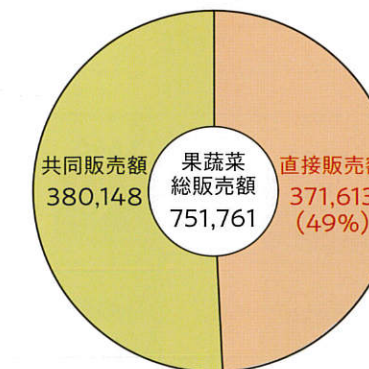
直売所での販売に止まらず、地域や県内の量販店への出店、保育園等の給食への供給などさまざまな形をとっています。年間の販売額では2億3千万円、来店者は11万2千人を超え、広くご利用をいただいています。



平成29年度の直販実績 単位：千円



(注)29年産米実績



(注)農産物直売所販売額は含まない



私たちの取り組み 2 農業生産拡大と所得向上に向けた農業振興

地域農業の状況と課題を踏まえ、将来を見すえた農業振興に取り組みます。

園芸振興

そでうら地域農業の基幹である施設園芸生産については、各農家や経営体の作型、労働力、資金にあわせた作目導入など経営相談を行っていきます。

施設園芸生産に加え、これからは農業所得を増やすために露地園芸の生産振興に取り組みます。生産者やJA実験農場において一定の実績が確認できたこと、主な作業について機械化ができることなどから、最初に「さといも」と「赤かぶ」の生産対策を実施いたします。

このため、種芋の斡旋や栽培講習会のほか、作業機械の導入や作業受託体制を整備します。

水田農業

農業所得を増やすために、そでうらファームとともに水田農業の効率化に取り組みます。そのために、農家個々が行っていた水田の貸し借りをそでうらファームが行い、さらにそでうらファームが稲作の作業受託や直営を行うことを積極的に検討いたします。

そでうらファームと今後行われる水田基盤整備によって、希望する農家が作業効率を高めながら規模拡大ができるよう、また稲作をやめる人が安心して水田を任せられる水田農業を実現します。

労働力不足に備えて

労働力不足とこれに伴う畑地の遊休化が地域農業の大きな課題となってきました。

●露地園芸（サトイモ）

このため、JA実験農場において作業の機械化・効率化が可能で土地利用型の露地園芸作物の試験に取り組んできました。その結果として29年度からサトイモを導入しています（30年度作付実績0.9ha）。

●稲作

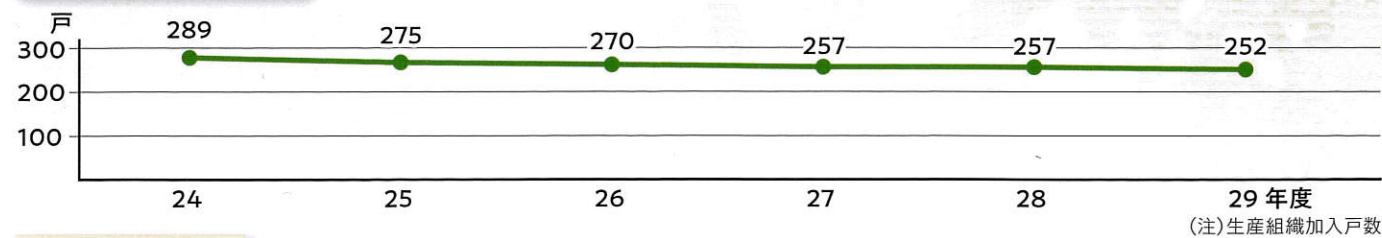
稲作については育苗・田植、防除、稲刈り・乾燥調製などの主要作業に関し各組織による作業請け負いを行っています。しかし、労働力不足が進み早春における農作業の重複が問題となってきました。このため、来春から農事組合法人そでうらファームは畦畔確立、耕起、代かきの水稲作業を引き受けることといたしました。

●無料職業紹介

JAでは働き手の確保対策として無料職業紹介事業を行っています。詳しくは企画管理部にお問い合わせ下さい。

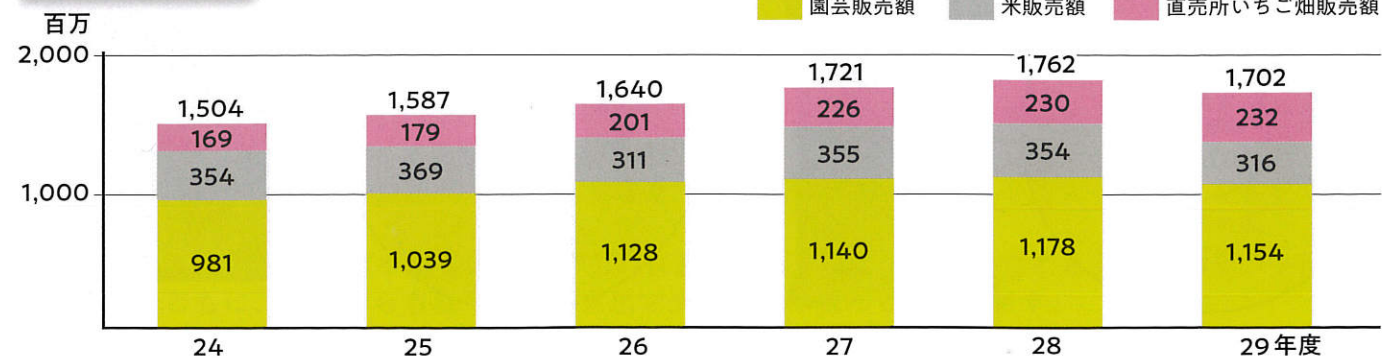
生産者戸数の推移

単位：戸



販売額の推移

単位：百万円



私たちの取り組み 3 農業生産コスト削減

農業所得の最大化をめざして、生産組織およびJA全農など関係者と協議しながら価格引き下げやトータルメリット強化に取り組んでおります。

●集約銘柄の予約積み上げによる価格の引き下げ

(例：かがやき14-14-14 29年度1,740円 30年度1,640円(自己取価格1,535円)
化成肥料14-14-14 29年度1,300円 30年度1,270円(自己取価格1,175円))

●品目集約による農業価格の引き下げ (例：キマリテ 約200円引き下げ)

●大型規格農薬の取り扱いの推進・拡大 (例：ブイゲットフェルテラ粒剤 29年度 1kg 3,320円⇒10kg31,060円
30年度 1kg 3,130円⇒10kg28,720円)

●価格の安いジェネリック農薬取り扱いの推進・拡大 (例：ジェイエース、ペンコゼブ)

●生産資材予約購買によるメリット強化

・生産資材セット予約の充実・拡大 28年度 対象13品目 取扱額1,747万円
29年度 対象16品目 取扱額1,703万円

・生産資材予約奨励の充実 予約額に応じ1~5%割戻さらに一定額以上のセット予約には1%上乘せ
割戻額 28年度582万円
29年度619万円

●農業用被覆資材の廃棄プラスチック処理費に対する助成の実施

予約額に応じ20%~40%助成 助成額 28年度81万円
29年度94万円

●農業用施設灯油の価格値引きの実施

供給量に応じ通常価格より値引き
29年1ℓ当たり7円~9円値引き
30年1ℓ当たり10円~12円値引き

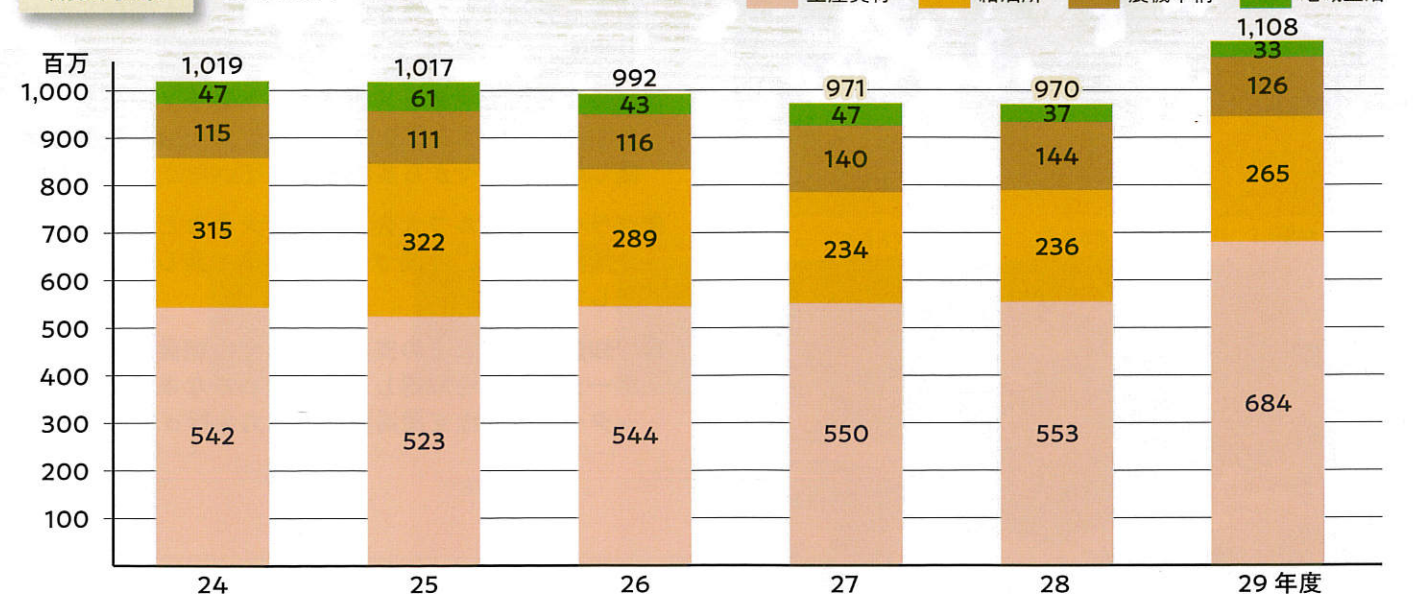
●このほか次の取り組みも進めます

- ・肥料などの予約・共同購入における入札や見積り徹底
- ・高度化成肥料の銘柄集約による価格引き下げ
- ・水稲除草剤などの品目集約による価格引き下げ
- ・機能を絞った低価格農機の共同購入
- ・出荷段ボールの規格・デザイン等の統一による価格引き下げ



購買事業

単位：百万円



私たちの取り組み 4 食と農の理解促進

農産物や地域農業を理解していただくための活動を行っています。

- JAそでうら青年部では、地域農業の学習活動として小学校からの依頼を受け水田教室を行っています。そでうら地域にあるすべての小学校でおこなっていて、水稻の種まきや田植えからはじまり稲刈りや収穫祭まで周年の学習活動として定着しています。
- 管内の農家から協力いただき「いちご狩り」を開催しています。ご家族やお友達グループ、幼稚園・保育園など、県内の各地から多くの来場をいただいています。
- 地域農業の理解と活気ある地域づくりのために、農産物直売所とともに収穫祭を行い、地域の方々から多数のご来場をいただいています。今後、複数回の開催など充実をはかります。
- 幼稚園・保育園を対象とした「さつまいも畑」を行っています。管内農家から協力いただき植え付けと収穫を楽しみながら体験してもらっています。
- 農業の楽しさを感じて知ってもらうために、20区画の市民農園を運営しています。



青年部お米教室



収穫感謝祭

私たちの取り組み 5 活力のある地域づくり

健康で活気のある地域でいられるための活動を行っています。



ワナゲ大会



フラワーアレンジメント教室

- 夏季には、管内の保育園や小学校からの出演、1000人を超える地域のみなさまの参加をいただきJAまつりやJAゴルフ大会を開催しております。
- 管内の4地区のコミセンと共催し20チーム130人を超える参加をいただき公式ワナゲ大会を開催しております。
- JAそでうら女性部が宮野浦コミュニティセンターと本所の2か所でフラワーアレンジメント教室を開催し地域の方々から多数の参加をいただいています。
- グラウンドゴルフ大会、ワナゲ大会など年金友会の活動により、仲間づくりと健康で楽しい生活を応援しています。
- 認知症の理解とその支援のため全役職員が認知症サポーター認証を取得し、またかわみなみ包括支援センターの認知症支援活動への協力を行っています。

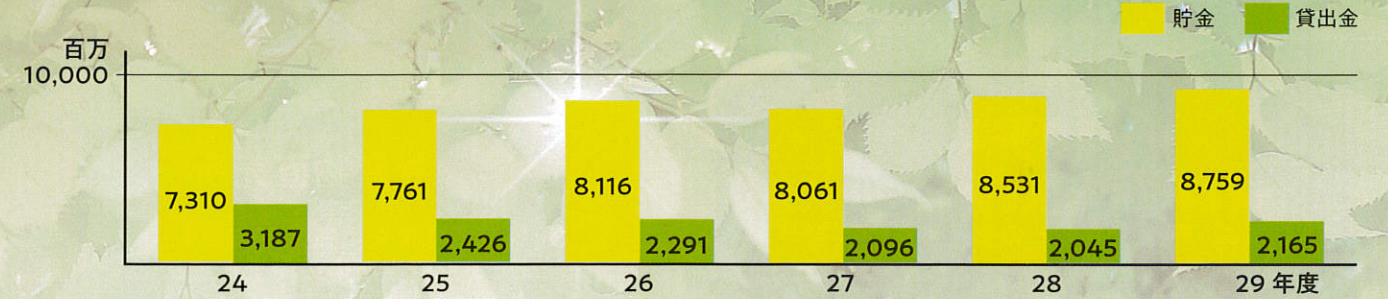
私たちの取り組み 6 もっとJAをご利用いただくために

組合員や地域のみなさまがさまざまなかたちでご利用をいただけるようにしております。

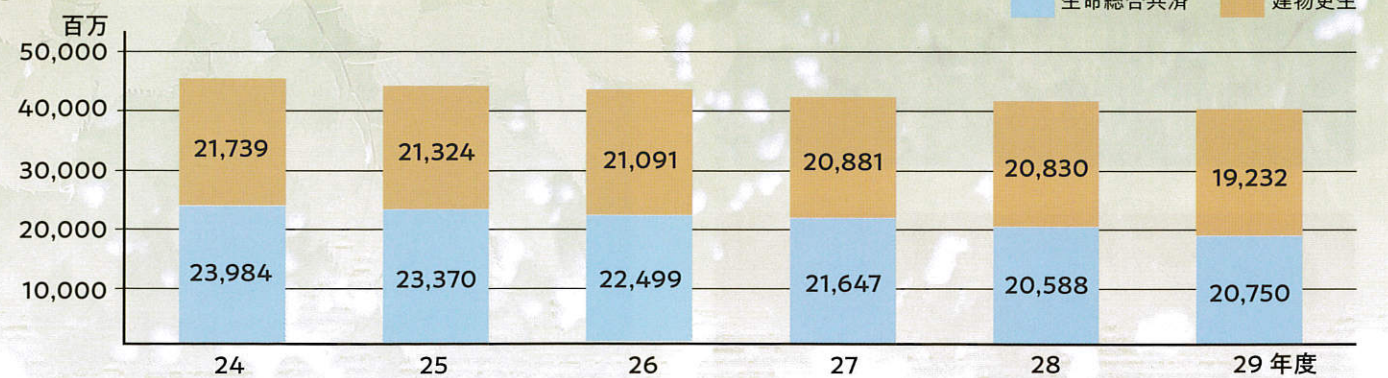
- 貯金キャンペーンにおいて組合員のみなさまへの金利上乘せ
- 組合員のみなさまに農産物直売所いちご畑の買物券提供
- 女性部員に対する灯油価格値引き（29年11月現在 通常価格より1ℓ当たり5円値引き）
- 車検、自賠責保険、自動車共済のセットで燃料価格値引き（29年11月現在 通常価格より1ℓ当たり5円値引き）
- JAカードの利用で価格値引き
 - ・自動車の燃料価格値引き（29年11月現在 通常価格より1ℓ当たり 2円値引き）
 - ・農産物直売所いちご畑で購入額割引（29年11月現在 購入額の5%割引）

事業実績の推移

①信用事業 単位：百万円



②共済事業 単位：百万円



組合員の推移 単位：人

